

参 考 資 料

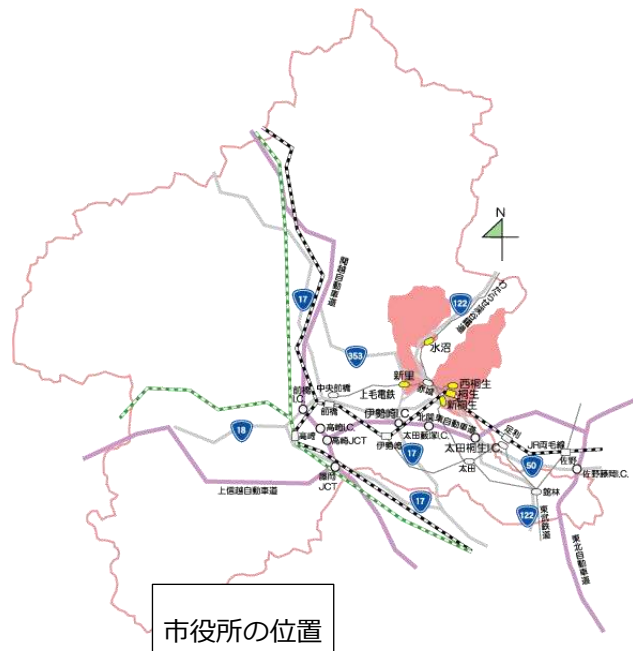
1. 位置的・自然的特性	… 1
2. 歴史的・文化的特性	… 1
3. 気象（令和2年）	… 2
4. 人口と世帯	… 2
5. 参考（推進項目）	… 3
6. 観光入込客統計調査報告概要（令和2年）	… 5

位置的・自然的特性

桐生市は、1921 年に全国 84 番目の市として誕生しました。その後、幾多の市域の変遷をへて、2005 年には新里村、黒保根村と合併し、面積は約 2 倍に広がりました。

群馬県の東南部に位置し、前橋市、伊勢崎市、太田市、沼田市、みどり市、栃木県の足利市、佐野市と接しており、東京とは直線距離で約 90 キロ、車で約 2 時間、ＪＲ（新幹線経由）または東武鉄道で、約 1 時間 40 分で結ばれています。

市街地には渡良瀬川と桐生川が流れ、山々が屏風状に連なり、市の総面積の約 7 割を森林が占めるなど、水と緑に恵まれた自然豊かな地となっています。



北緯 36 度 24 分 19 秒 東経 139 度 19 分 50 秒
標高 107.672 メートル

歴史的・文化的特性

桐生の歴史は古く、市内からは縄文時代の石器・土器、住居跡が発掘され、なかでも千網谷戸遺跡（ちあみがいどいせき）から出た耳飾りは、国の重要文化財に指定されています。

また、古くから織物のまちとして発展してきた桐生市は、奈良時代のはじめには絹織物を朝廷に献上した記録が残っており、江戸時代には「西の西陣、東の桐生」とうたわれ、織物の一大産地となりました。

現在も、織物産業の繁栄を今に伝える町並みがいたるところに残っています。天満宮地区と本町一、二丁目には、約 400 年前の土地の区画（敷地割）に、江戸後期から昭和初期に建てられた主屋や土蔵、ノコギリ屋根の工場など、絹織物業に関わるさまざまな建造物が数多く残っており、国の「重要伝統的建造物群保存地区※」に選定されています。

※ 重要伝統的建造物群保存地区…市町村が条例などにより、歴史的な建造物や町並み、またそれらと一体となっている環境を保存するために都市計画で決めた伝統的建造物群保存地区のうち、文化財保護法の規定に基づき、特に価値が高いものとして国が選定したものです。

気象（令和２年）

年平均気温	15.6 度
最高気温	40.5 度
最低気温	マイナス 6.3 度

※前橋地方気象台ホームページより

人口と世帯（令和３年 12 月末）

区域	男	女	計	世帯数
旧桐生市	42,459 人	46,125 人	88,584 人	42,149 世帯
新里町	7,999 人	8,138 人	16,137 人	6,504 世帯
黒保根町	825 人	833 人	1,658 人	812 世帯
計	51,283 人	55,096 人	106,379 人	49,465 世帯

注：旧桐生市は、平成 17 年 6 月 13 日の新里村、黒保根村との合併前の桐生市



※データは国勢調査数値

1 日本遺産を活用した観光施策

[illegible]

まちなか周遊観光の推進

キノピーバスポート

(商店街との連携)

- ・商店街振興協会などと連携した周遊観光促進
- ・約100店舗もの協賛店で割引サービスなどの特典と観光パンフレットを配布
- ・観光客にトイレや休憩所を開放してもらえる店舗情報も紹介

桐生市観光情報センター「シルクル桐生」

- ・群馬銀行桐生支店の敷地内に、観光発信拠点と物産販売拠点を併せ持った施設として、令和2年3月にオープン
- ・まちなかの周遊観光の拠点施設として活用
- ・観光誘致施設及び物産販売については、「一社」桐生市観光物産協会に業務を委託
- ・地域おこし協力隊を活用し、オリジナル商品の開発やECサイト構築などを通じ、桐生の魅力を発信していく



近隣自治体との連携

赤城山観光広域連携事業

国の地方創生推進交付金を活用し、赤城山周辺自治体により、赤城エリアの自然環境と地城資源を活用したサイクルツーリズムや観光プロモーション、周辺観光などを促進

桐生・みどり周遊観光推進協議会

東京から日元への観光客をターゲットに、桐生・みどりそれぞれ観光資源を活かした周遊コースを商品化して、曹菊園からの誘客を図る

広域周遊観光促進事業（R2終了）

国・地方創生推進交付金を活用し、足利市や両市農産物連携しながら、両市の共通の観光資源である日本遺産の関川温泉を核として、広域周遊観光の促進とインバウンドを促進

両毛線沿線のほほんいんどトリップ

- ・JR高崎文化と両毛線沿線6市の連携事業
- ・植物文化の発信と、植物に親しんでもらうことを目的に実施
- ・植物の喜付けを中心に、各所で工夫を凝らした体験メニュー提供

4 公民で連携した観光施策

市民に桐生を発信してもらう

H20年度
桐生観光大学

市民の観光に対する意識の高揚と情報発信機能強化
H26『織都桐生』案内人の会』設立へ

H23年度
桐生の一押し商品認定事業

- 桐生市の優れた物産品の盛り上げと宣伝を推進
- 認定品には一押しシール
- 商品開発を促進

R2年度認定(R4年度まで)
食品:61品目
農工業:137品目

公民で連携したまちづくり

■桐生を「おもしろい」と思ってくれる人達＝桐生人の活躍

- 自分の可能性・夢の実現に向かって新しい取り組みを受け入れる意地がある
- やりたいことができるヒト・モノ・環境がある

5 桐生市の特長を活かした観光施策

意外にあるお楽しみスポット

桐生が得意な活動(入浴・散歩・家族で楽しむ)

自然の森(自然の森の気候を再現した温泉)

おだんぼ(おだんぼの温泉センターの温泉を利用した温泉)

自然観察の森(各施設が温泉)

温泉地の中にあるプラネタリウム(観望付き)

織物文化が育んだ市 **三大市**

■天満宮古民具骨董市
織物の取り引きがあった天満宮を会場に骨董市を開催。現在では関東の三大骨董市と言われるほどまでに。

■買場紗綾市
織物の取り引きがあった買場で市を開催。織物製品から食べ物、日用品まで品数豊富に取り揃えている。

■桐生楽市
織田信長の「楽市楽座」をもじって、ゴザの上で楽しみながら位置を行おうという趣向から、「楽市楽座」という名前で開始したフリーマーケット

織物文化が育んだグルメ

■桐生うどん
織物で忙しかつた東江さんのファーストフードとして広まったと言われている

■寿司屋・うなぎ屋が多い
織物の取り引きのめどまの接待にまつことから、市内にはお店が多いと言われている

■ソースかつ丼
織物で忙しかつたことから、揚げたカツを、うなぎのタレに似た甘いタレにきつてつけて食べていたものとされている

■ひもかわうどん
織物があるが、織物で忙しかつた自営が、手間を減らすため織物に替わったことからも言われている。

ロケ地としての魅力

- 東京から約2時間
- 数多くの味のある施設がある
- フィルムコミッションの活躍

星の華
ノースライト
高松しんであら など

織物文化が育んだまちなみ

■重要伝統的建造物群保存地区

1591年、徳川家康の勅を受けた代官大久保町家の手代、大野八郎門により建て。町建て当時、桐生天満宮を基点に四角が町、面積は40町町の町作り、桐生町町として職人を住まわせたと言われている。当時の町割りや建物が現在も残っている地区。

江戸一筋に掛けて酒・味噌・醤油を醸造し保管するための11の蔵群。現在は多目的イベントスペースとして活用されている。

桐生八木節まつり

歴史ある「桐生八木節祭り」として「八木節」を中心とした「桐生八木節まつり」は、毎年約30万人もの人出で賑わいます。まつり期間中は市内各所にやぐらが設置され、何重にもまつりの飾りが張りめぐらされ、真夏の夜に輝きます。

日程：毎年8月第一土・土・日曜

令和2年（2020年）

観光入込客統計調査報告概要（群馬県）

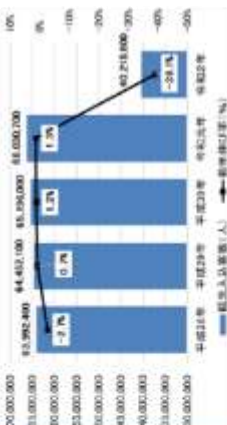
群馬県発表資料より

結果概要

■まとめ

- 観光入込客数
40,215,6千人であり、前年比▲39.1%
- 宿泊者数
夏へ宿泊者数は5,635千人泊であり、前年比▲34.8%、
外国人夏へ宿泊者数は70千人泊であり、前年比▲75.9%
- 観光消費額
1,785億円であり、前年比▲37.3%
- 観光消費額単価
宿泊23,491円であり、前年比▲8.8%、
日帰り4,399円であり、前年比▲4.7%

■観光入込客数



■宿泊者数

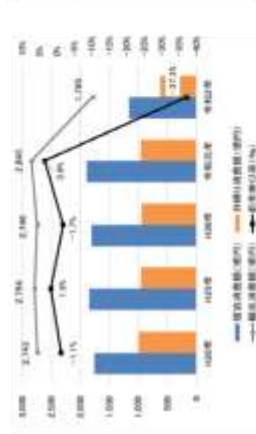


■外国人夏へ宿泊者数別滞在シエラ(従業員数10年以上の施設)

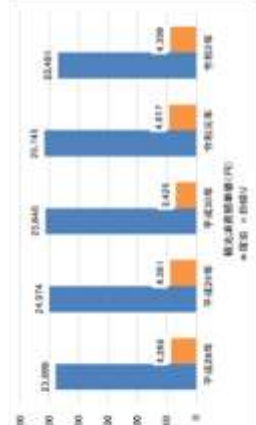


外円：2020年国籍別シエラ
内円：2019年国籍別シエラ

■観光消費額



■観光消費額単価

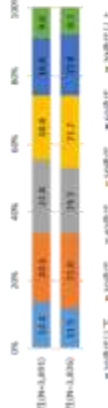


調査方法

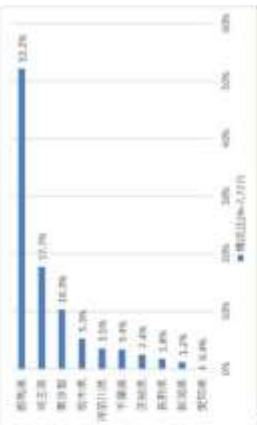
- 観光入込客数 群馬県(観光客数・消費額調査)
・年間1万人以上、もしくは特定月が1,500人以上の全観光地(観光行事)について、県内35市町村へ調査を行い集計
- 宿泊者数 観光庁「宿泊旅行統計調査」
・観光に限らず、宿泊施設すべて観光客等(観光客・観光客)の調査を行い集計
- 観光消費額
・年間1万人以上、もしくは特定月が5,000人以上の観光地(観光行事)について、「観光地(観光客)アンケート調査」※
(参考)※群馬県(観光客数・消費額調査)
・調査項目：性別、年齢、居住地、来訪目的、旅行消費額、来訪満足度、再来訪意向等

(参考)群馬県「観光地(観光客)アンケート調査」結果

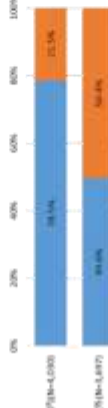
■観光客の属性-性別-



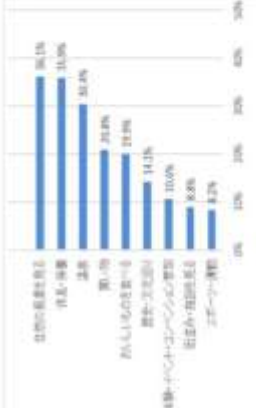
■観光客の属性-居住地-(上位10府県)-



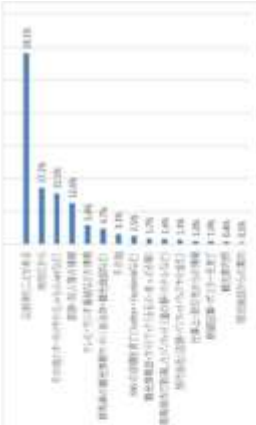
■観光客の属性-宿泊の有無-



■観光の主な目的(複数回答)



■観光地選択の理由(複数回答)



○ 「自然の風景を見る」が前年比より割合が増加し、36.1%で最も多くなった。(30.2%→36.1%)

○ 「以前来たことがある」が56.1%で最も多い。